

## 2～4号機建屋滞留水貯蔵量見直しについて

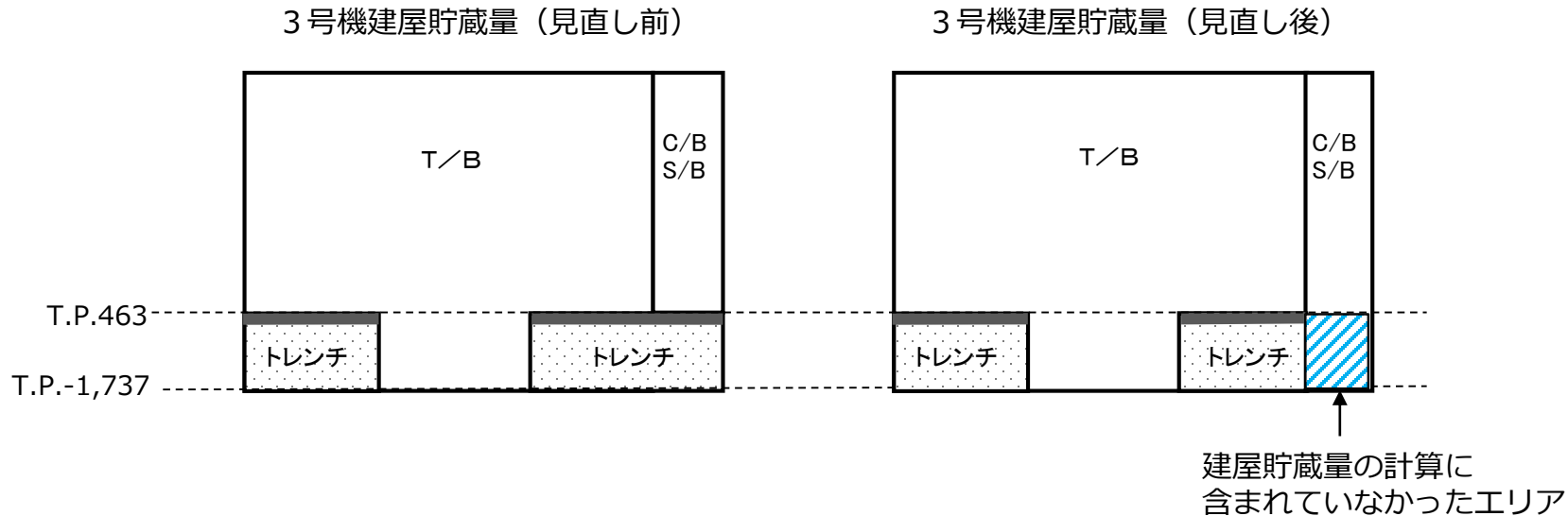
---

# 1. 3号機建屋滞留水貯蔵量算出方法の見直しについて

- 342報週報（H30.2.15～H30.2.22）から下記エリアを建屋滞留水貯蔵量に含める事とする。

エリア	内容	体積
3号機C/B地下エリア	C/B残水エリアの調査において、当該地下エリアが建屋滞留水貯蔵量の計算に含まれていなかったことが判明。その為、342報週報より反映する事とした。	約2,100m <sup>3</sup>

- 3号機C/B地下エリアの滞留水貯蔵量算出方法について
- 追加したエリアの滞留水貯蔵量は有効床面積※×水高さ(水位－床面高さ)によって算出。  
※機器配置図から求めた面積×機器を考慮した有効面積率



## 2. 2～4号機残水エリアについて

- 滞留水が残存している以下のエリアについて、342報週報（H30.2.15～H30.2.22）から建屋滞留水貯蔵量に含める事とする。また、排水完了後に流入があるエリアについても建屋貯蔵量として管理する。

- 対象エリア

(H30.2.22 7:00時点)

号機	エリア	水量
2号機	①バッチオイルタンク室	約2 m <sup>3</sup>
	②消火ポンプ室	約5 m <sup>3</sup>
3号機	③バッチオイルタンク室	約4 m <sup>3</sup>
	④消火ポンプ室	約7 m <sup>3</sup>
	⑤C/Bエリア	約1,910 m <sup>3</sup> ※1
4号機	⑥バッチオイルタンク室	約5 m <sup>3</sup>
合計	—	約1,933 m <sup>3</sup>

※1：3号機C/B地下エリアを含めた貯蔵量

- 建屋貯蔵量

(H30.2.22 7:00時点)

号機	見直し前	見直し後
1号機	約4,620 m <sup>3</sup>	変更無し
2号機	約9,590 m <sup>3</sup>	約9,600 m <sup>3</sup>
3号機	約9,630 m <sup>3</sup>	約11,560 m <sup>3</sup>
4号機	約10,680 m <sup>3</sup>	変更無し
合計	約34,520 m <sup>3</sup>	約36,460 m <sup>3</sup>

# 【参考】 2～4号機残水エリアについて

備考※ 各建屋地下エリアの滞留水貯留状況

